

発行：平成19年3月10日
第19集 第1号

ウソも方便

この言葉は、とっても有名なことばですので、ご存じの方も多いでしょう。「ウソをついてはダメ」と叱っている親が、平気で「ウソも方便」と言うので、子どもたちが戸惑ってしまうことがあります。

これは、方便のためにウソをつくこともある、ということも言っているのであって、決して方便が全部ウソと言うわけではありません。

◇

この「方便」という言葉は、仏教の言葉です。悟りに近づくための方法のことを言います。お経の中には、さまざまなたたえ話がありますが、これらも方便です。

たとえばたとえ話がたくさん入っている『法華経』というお経には、「火宅のたとえ」があります。

インドの王さまに、三人の王子さまがおられました。

ある日王さまが出かけている時に、王宮が火事になりました。しかし、子どもたちは遊びに夢中になって出てきません。

急いで帰ってきた王さまは、外から「お前たちが欲しがっていたクルマを買ってきたから出ておいで」と大声で呼びました。すると大慌てで子どもたちが外に出てきましたが、クルマはありませんでした。

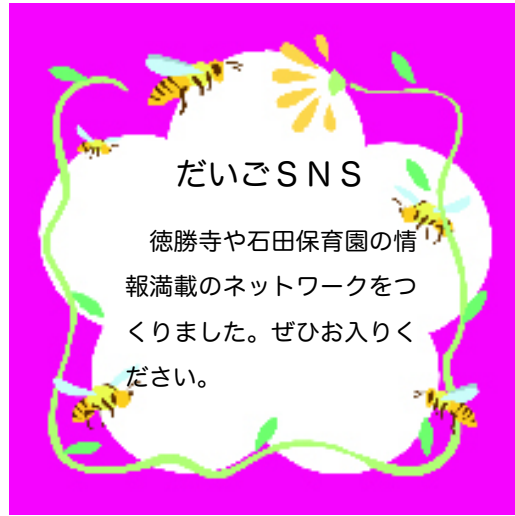
そこで、子どもたちは「お父さまのウソつき」となじったのです。しかし、そのウソのお陰で子どもたちの命は助かったの

でした。

◇

このお話は、私たちは目先の欲望にとらわれていて、今がとんでも危ういのだということも教えてくれています。お釈迦さまはそれをご存じで、「こつちにお前たちが欲しがっていたものがあるよ」と呼んでくださっているのです。本当のことに気づいていない私たちに、真実を知らせてくれました。

それを私たちにやさしくお話してくれるのがお説経です。間もなく彼岸がやってまいります。徳勝寺でも彼岸会にはお説経がございます。ぜひお参りになつて、本当のことに気づいて、みんな一緒に本当の幸せになりましょう。



だいでSNS

徳勝寺や石田保育園の情報満載のネットワークをつくりました。ぜひお入りください。

浄土真宗本願寺派 徳勝寺

〒 769-2321

所在地 香川県さぬき市寒川町石田東甲 618

電話 0879 (43) 2023

FAX 0879 (23) 2008

email booze@daigo.or.jp

URL www.daigo.or.jp

SNS daigosan.so-netsns.jp

本堂永代経 納骨堂彼岸会

3月20日(火)

21日(水・春分の日)

両日とも午後1時半より

御講師 片岡雅子先生

編集後記

まったく寒くなく、冬が終わりかけています。

二月には急に温度が下がったことが何度かあったので、たくさんのお門徒さんがお亡くなりになりました。

懐かしい人たちがお亡くなりになるのは、ご家族やお同行の方たちにとつても寂しいことでしょうが、住職にとつても寂しいことです。

優しかったお婆さんや、昔のことをたくさん教えてくださったお爺さん。元氣でかいが、いしく動いておられた方々と、直接お話できなくなりしました。

お彼岸のご法要をお勤めいたします。ご家族だけでなく、ご親戚にもご案内して、皆そろつてお参りになつて、懐かしい方を偲ばせていただきます。

ご法事の作法

ご法事の意義

年忌法要は、何のために
お勤めするんでしょう。ま
た、祥月命日などは、何の
ためにしているのでしょうか。
遺つた人たちがお勤めする
ことで、お浄土に往つた人
たちに、何か良いことがあ
るのでしょいか。

お浄土に往つた人たちは、
仏さまになつて、遺つた私
たちを見守つておられ、今
も私たちが元気で生きてい
けるようにと働いていてく
ださるのです。つまり、拝
まれているのは、私たち自
身だつたのです。

生前のご恩と同時に、仏
さまになつて、今の私たち
の上に働いていてくださる
ことを感謝して、ありがと
うとお礼させていただくの
が一番大切なのです。

お勤めがわからない

ご法事のお勤めは、何を
読んでいるのかわからない
とよく問われます。

意味については、お経の
間のご和讃や、最後に拝読
する御文章で、分かつてい
ただけると思います。

お経をお勤めするのは、
お浄土の世界をあらわして
います。心静かにお勤めを
聞かせていただき、お浄土
からの阿弥陀さまや、ご先
祖のお呼び声と聞かせてい
たできます。

理屈を越えて、私たちが
救いたいと願われた阿弥陀
さまのお働きを感じさせて
いただきます。



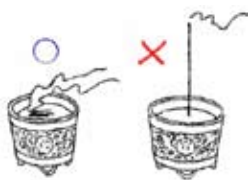
合掌は両手を胸の前で軽くあわせませす

基本のお供え

お仏壇に欠かせないもの
は、お華とおひかりとお香
とお仏飯です。

お華は、仏さまのお慈悲
をお供えするものです。仏さ
まには「匂い」しか届かな
い、と昔から言つておりま
した。ですからお仏飯は
湯気のある間にお供えしま
すし、お香もできるだけ良
い香りのものをお供えしま
しょう。

ことに、お線香は左のよ
うに、立てないで、適当に
折つて、寝かせて香炉に入
れましょう。



速夜つて何？

ついこの間までは、ご法
事と言えば、前日の夕方の
速夜法要から始まつていま
した。前日に一席、あくる
日は二席お勤めの後、お
精進のお正食ができました。
その後、最後のお勤めがあ
り、その後、お酒の出るお
齋の席がもうけられました。
ですから、今でもお祥月
は速夜にお勤めすることが
多いのです。以前は、翌朝
の命日にもお勤めをしてお
りました。

逆に、ご法事はご命日に
お勤めして、昼食にお齋を
差し上げることが多いよう
です。最近はお仕事の関係
か、三時・四時からお勤め
をして、夕食にお齋を差し
上げることも多くなりました。
た。

お仏飯を替えるわけ

ご法事の三席目には、お
仏飯を上げ替えます。

最初はお赤飯、三席目は
白いご飯をお供えます。

右でも説明したように、
昔は二席目と三席目の間に
お正食がありました。お正
食はお精進で、お煮しめな
どと赤飯のものでした。そ
のために、先にお赤飯をお
供えし、三席目にはお齋の
ために炊いた白米のご飯を
お供えます。

仏さまに見守られて生き
ている私たちなので、ご飯
も仏さまに先に差し上げま
す。私たちがご飯をいただ
く時には「お相伴させてい
ただきます」とご挨拶して
いただきます。



お焼香

ご法事の三席目にはお焼
香をします。

土香炉と香盒を用意しま
しょう。土香炉には乾いた
灰を入れておき、香盒には
抹香を用意しておきます。
また、ご法事の時には、お
参りの人全員にお焼香をし
ていただくので、この二つ
を乗せるお盆も必要です。

お焼香のお作法は、①一
礼、②一回だけ、三本の指
で抹香をとつてくべ、③合
掌、④お念仏しながら礼拝、
となります。

取つたお香を戴いたり、
何回もくべたりはしません
ので、注意してください。



お口ウソクの色？

ご法事の三席目に、朱口
ウソクにあげかえます。こ
れは七回忌以降のご法事の
お作法です。

もちろん、すべて朱口ウ
ソクでも良いのです。しか
し、昔は値段が高かつたの
で、三席目にだけ使つて儉
約したのでしよう。

他にも、親鸞聖人のご命
日をお勤めする報恩講や、
開眼供養などのお祝いのご
法事にも朱口ウソクを使
います。

その他にも、お口ウソク
の色には金・銀や、絵が描
いてあるものなどもありま
す。



御文章

浄土真宗にあつて、他の
お宗旨には絶対ないものが
あります。その一つが「御
文章」です。お勤めが終わ
つたら、かならずこの御文章
を、独特の節回しで拝読い
たします。

これは、本願寺第八世の
蓮如上人が私たちに向けて、
日本語で分かりやすく説
いてくださったものです。

拝読している間は、一緒
に声に出すのではなく、静
かに聞かせていただきます
しょう。

ご法事やお祥月の時には、
右のように、お経机の左側
に置いておいてください。

